

口頭発表①

D301 11:10~12:00 (発表7分 質疑2分 交代1分)

11:10~11:20

[O-1] 保険薬局間の情報共有により、外来通院から在宅医療へ円滑に移行できた1例
井手 陽子 (さくら薬局 久留米大学病院前店)

11:20~11:30

[O-2] 在宅支援・緩和ケア病棟入院後に減薬となる患者の要因の調査
清水 優子 (医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 薬剤部)

11:30~11:40

[O-3] 当院におけるエリブリンメシル酸塩投与患者の悪心・嘔吐発現状況の調査と課題の
検討
宇野 健一 (岩見沢市立総合病院 薬剤部)

11:40~11:50

[O-4] 当院におけるジクロフェナクナトリウム貼付剤の安全性に対する要因の検討
北島 聖也 (国会公務員共済組合連合会 斗南病院 薬剤部)

11:50~12:00

[O-5] がん悪液質に対するアナモレリンの処方調査と、がん治療に及ぼす影響の実態調査
辻 俊輔 (函館五稜郭病院 薬剤科)

口頭発表②

D301 13:30～14:20 (発表7分 質疑2分 交代1分)

13:30～13:40

[O-6] 緩和ケア病棟における入退院支援～外来から入院までの関わりを通しての学び～
下野 望矩 (社会医療法人 平成醫塾 苫小牧東病院)

13:40～13:50

[O-7] 食道癌術後の固形食摂取に関する不安－管理栄養士に求められる関わりについて－
入江 翠 (手稲溪仁会病院 栄養部)

13:50～14:00

[O-8] 妻の死を前に自死の意向を表出した夫へのグリーフケア
山口 歩 (HOME CARE CLINIC N-CONCEPT)

14:00～14:10

[O-9] 患者の僅かなサインから苦痛と意向を汲みあげ実現可能な苦痛緩和の方法を組み立てるがん看護専門看護師の実践
栗村 めぐみ (合同会社かんわけあ るりか訪問看護ステーション)

14:10～14:20

[O-10] 強いスピリチュアルペインに対し調節型鎮静で苦痛緩和を行った一症例
佐藤 雪絵 (国家公務員共済組合連合会 斗南病院 診療サポート室 緩和ケアチーム 看護師)

口頭発表③

D302 13：30～14：20（発表7分 質疑2分 交代1分）

13：30～13：40

[O-11]

在宅看取り未経験の市立病院で外来から在宅看取りまで継続的にケアを行った一例
佐藤 孔明（ゆう在宅クリニック 旭）

13：40～13：50

[O-12] 全肝照射を行う際の制吐剤を中心とした悪心予防の取り組み

出倉 康裕（勤医協中央病院 放射線治療科）

13：50～14：00

[O-13]

慢性閉塞性肺疾患の急性増悪で緊急入院したところ、右下葉肺癌・多発骨転移が判明し病院にて最期をむかえた1例

石川 慶大（北海道社会事業協会小樽病院 外科・呼吸器外科）

14：00～14：10

[O-14]

在宅医療・在宅緩和ケアの質向上を目指して在宅で開始した皮膚科往診についての実態調査

飯田 智哉（札幌在宅クリニックそよ風）

14：10～14：20

[O-15]

1回の受診、数時間の滞在で治療完遂する緩和的放射線治療報告

高田 優（札幌禎心会病院 放射線治療科）

口頭発表④

D301 14：30～15：20（発表7分 質疑2分 交代1分）

14：30～14：40

[O-16]

横行結腸癌術後の腹壁転移による難治性がん疼痛に対して、複数の画像下治療を組み合わせることで長期在宅療養が可能だった一症例

安濃 英里（手稲溪仁会病院 緩和ケア科 緩和ケアチーム）

14：40～14：50

[O-17]

膵がんに対する神経ブロック適応に関する後方視的検討

山崎 裕（市立函館病院 緩和ケア科）

14：50～15：00

[O-18]

緩和医療のなかでの IVR 治療の経験

武藤 修一（札幌南徳洲会病院 内科・緩和ケア内科）

15：00～15：10

[O-19]

当院における骨転移に対する集学的治療

川畑 恵（勤医協中央病院 緩和ケア科）

15：10～15：20

[O-20]

フルニエ壊疽をきたした前立腺癌の一例

高橋 正二郎（医療法人為久会 札幌共立五輪橋病院 緩和ケアセンター）

口頭発表⑤

D302 14：30～15：20（発表7分 質疑2分 交代1分）

14：30～14：40

[O-21]

当ステーションにおける遺族による QOL 代理評価尺度が低い、緩和ケアを受けた末期がん利用者の特徴

谷津 圭祐（イムス札幌訪問看護ステーション）

14：40～14：50

[O-22]

緩和ケア病棟と一般病棟における造血器悪性腫瘍死亡例の検討
長町 康弘（札幌清田病院 血液内科）

14：50～15：00

[O-23]

療養病棟で最期まで生き抜くと決めたがん患者の希望を支えて
～看護師と介護士の協働を強みとした一例～
佐久間 智枝（社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院）

15：00～15：10

[O-24]

在宅緩和ケアにおける Phase of Illness（緩和ケアの病期）の評価
大日方 裕紀（北海道大学 大学院 保健科学研究所）

15：10～15：20

[O-25]

本人の思いをくみ取りきれなかった事例を振り返り得た学び
礒見 麻美（社会医療法人 札幌清田病院）

口頭発表⑥

D301 15:30～16:20 (発表7分 質疑2分 交代1分)

15:30～15:40

[O-26]

在宅での髄腔内化学療法にて症状緩和を得た中枢神経浸潤を伴う急性骨髄性白血病
宮下 直洋 (HOME CARE CLINIC N-CONCEPT)

15:40～15:50

[O-27]

緩和ケアチームにおける心理職の役割について
赤松 直子 (市立函館病院 臨床心理科)

15:50～16:00

[O-28]

非けいれん性てんかんを発症した転移性脳腫瘍の一例
齋藤 典子 (札幌南徳洲会病院 緩和ケア内科)

16:00～16:10

[O-29]

緩和ケアへ移行した終末期癌患者に対する作業療法
Activity の導入を契機に自己効力感に焦点を当てて介入したことでADLが向上した一例
佐藤 弘典 (医療法人為久会 札幌共立五輪橋病院 リハビリテーション科)